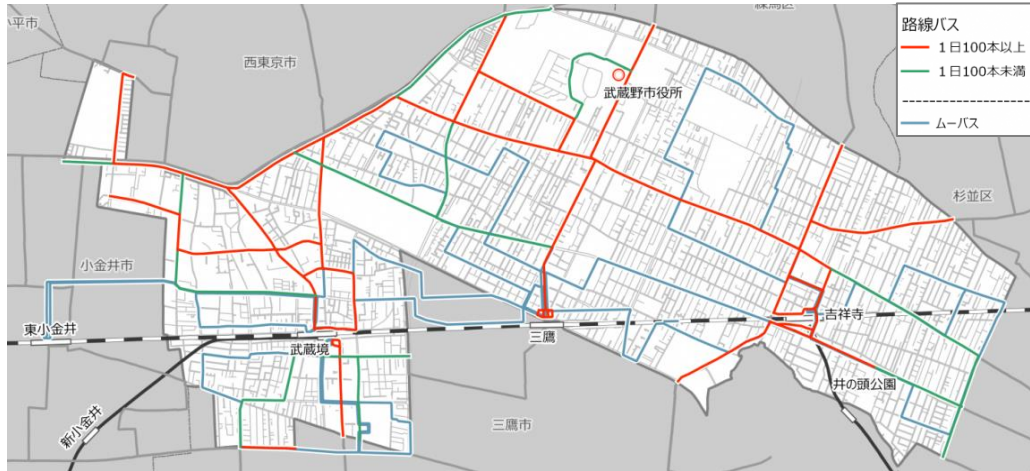


武蔵野市の地域公共交通の将来像

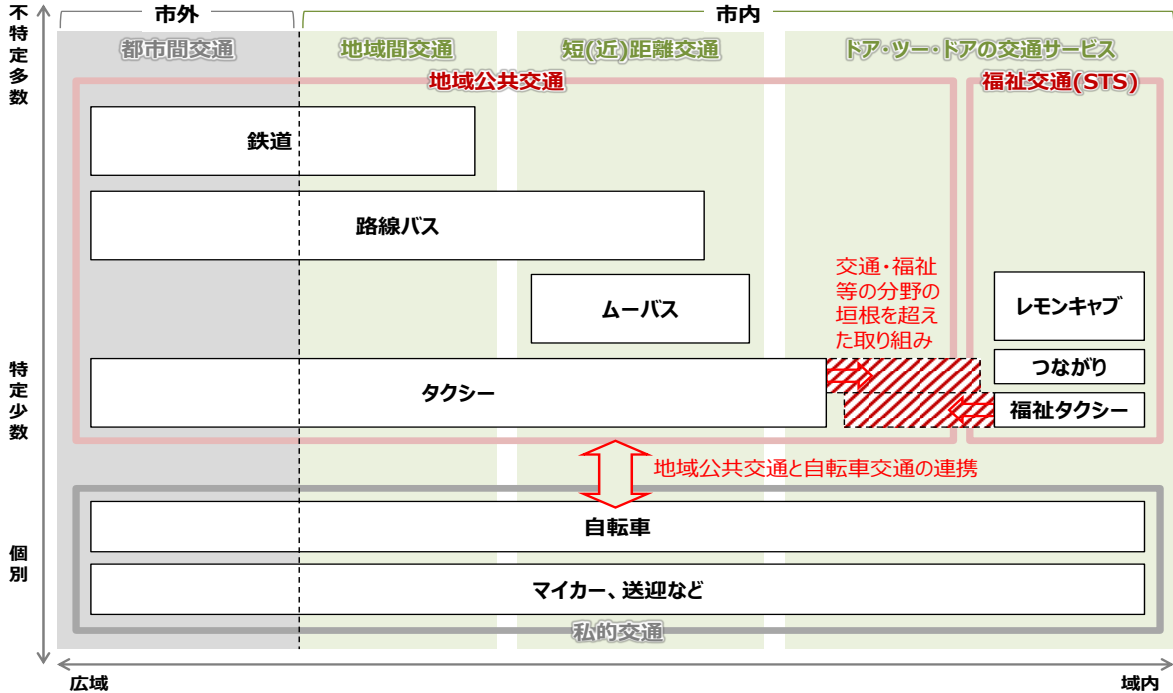
計画の基本理念と基本方針、目標を踏まえて、武蔵野市の地域公共交通ネットワークの将来イメージとサービス領域を次のとおり定めます。

既に武蔵野市では、鉄道、路線バス、ムーバス、タクシー及び福祉交通により、高い水準の地域公共交通ネットワークが保たれているため、現在の利便性の高いネットワークを維持していきます。

【武蔵野市の地域公共交通ネットワークの将来イメージ（利便性の高いネットワークの維持）】



【武蔵野市の地域公共交通のサービス領域（福祉・自転車交通との役割分担と連携）】



計画の推進体制と評価・検証

●計画の推進体制

本計画の推進は、「武蔵野市地域公共交通活性化協議会」が行います。

●評価・検証

計画期間（6年間）における事業実施状況や目標達成状況の評価・検証を行う「大きなPDCA」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCA」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

武蔵野市地域公共交通網形成計画の概要

計画の目的・位置付け・区域・期間

●計画の背景と目的

武蔵野市の地域公共交通は鉄道、路線バス、ムーバス、タクシーで形成され、福祉交通も含め、高い水準の地域公共交通ネットワークが保たれています。少子高齢化の進展や高齢者人口の増加、交通事業環境の変化や技術革新など交通を取り巻く環境が大きく変化しており、高齢者・子育て世代等の移動手段確保や駅を中心としたまちづくり、自転車交通との連携・役割分担など、新たな課題への対応が求められています。

本市における地域の課題や地域公共交通の現状・問題点などを踏まえ、市が目指す将来都市像を実現する上で地域公共交通の果たすべき役割を明らかにするとともに、市民の生活と移動を支援し、かつ、持続可能な地域公共交通網を実現するため、そのビジョン、目標及び施策体系を示すマスタープランとして、「地域公共交通網形成計画」を策定します。

●計画の位置付け



●計画の区域：武蔵野市の全域

●計画の期間：令和2（2020）年度から令和7（2025）年度までの6年間

ただし、期間内においても必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

武蔵野市の地域公共交通の課題・基本的な方針・目標

上位・関連計画等におけるまちづくりの方向性
(第六期長期計画、都市計画マスタープラン等)

課題①
交通モードの連携・役割分担により、多種多様な移動ニーズに対応することが必要

課題②
地域共生社会に対応したきめ細かな地域公共交通網の形成が必要

課題③
自転車交通と地域公共交通の連携が必要

課題④
道路空間や駅前空間の効果的な運用が必要

課題⑤
武蔵野市の状況に適した分かりやすい情報提供が必要

基本理念

「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまち」づくりに貢献する持続可能な交通体系の構築

基本方針・基本目標

基本方針①

高齢になっても障害があっても住み慣れた地域で暮らし続けられ、子育て世代も移動しやすい地域公共交通

目標① 利便性の高い地域公共交通ネットワークが維持されている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- バス交通（路線バス及びムーバス）によるカバーエリア ⇒現状維持（97.6%）
- ムーバスの収支率 ⇒現状維持（78.5%）

目標② 交通・福祉等の分野の垣根を超えた取り組みにより、市民の移動が保障されている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- 福祉交通（レモンキャブ及びつながり）の利用者数 ⇒現状維持（27千人/年）
- 武蔵野市の公共交通等の外出手段の満足度 ⇒増加（68.0%）

基本方針②

住む人・訪れる人にとって、分かりやすく利用しやすい地域公共交通

目標③ 駅周辺の交通需要の平準化が図られている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- 武蔵野市の公共交通等で駐輪場関係の満足していない割合 ⇒減少（29.0%）

目標④ 誰もが迷わず分かりやすい情報が提供されている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- 市内のバス交通等（路線バス・ムーバス）の利用者数 ⇒増加（238千人/日）

基本方針③

多様な関係者と連携し、地域や経済に活力をもたらす地域公共交通

目標⑤ 3駅周辺において「安全で歩いて楽しいまち」が形成されている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- 駅周辺の交通空間の整備・再編等に関する取り組み件数 ⇒実施（3件）

目標⑥ 交通サービスを提供するための基盤（交通環境）が整っている

《評価指標（2025年度の目標値）》

- イベント等の実施回数 ⇒実施（6回）
- バス待ち環境整備を行った箇所数 ⇒実施（2箇所）

目標達成のための事業及び施策

施策① バス交通の高密度ネットワーク・高頻度サービスの維持

①-1 路線バスとムーバス事業による一体的なサービス提供

- 路線バスによる骨格バス路線の形成
- コミュニティバス「ムーバス」による市内ネットワークの形成

①-2 ムーバスの持続可能な運行に向けた見直し

- 実態を踏まえた運行時間帯・ダイヤ・ルートなどの見直し
- 運賃以外の収入確保

施策② 福祉交通の維持・確保

②-1 「レモンキャブ」・「つながり」などによる武蔵野版・福祉交通の継続

- 移送サービス「レモンキャブ」及びリフトタクシー「つながり」の継続
- 武蔵野市福祉タクシー事業の継続



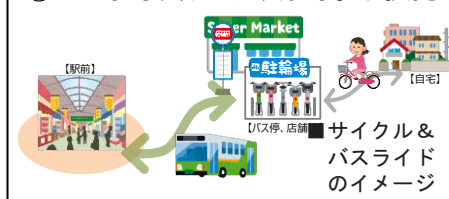
②-2 主要拠点における福祉車両の乗降場所の確保

施策④ 自転車交通等とバス交通の連携

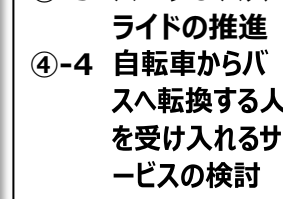
④-1 バス＋自転車 MaaS アプリの検討



④-2 サイクル&バスライドの検討



④-3 パーク&バスライドの推進



施策⑤ 分かりやすい情報の提供

- ⑤-1 地域公共交通の総合案内板及び総合案内マップ
- ⑤-2 主要拠点での情報提供強化
- ⑤-3 バスナビによるリアルタイム情報提供

施策⑦ 運行環境の整備

- ⑦-1 ムーバスブランドを活用した乗務員確保の取り組み
- ⑦-2 バス待ち環境の整備
- ⑦-3 次世代環境対応車両等の普及促進
- ⑦-4 新たなモビリティの必要性・可能性についての検討



■「さくら祭り」でムーバスのブーイングの発展



■UDタクシー

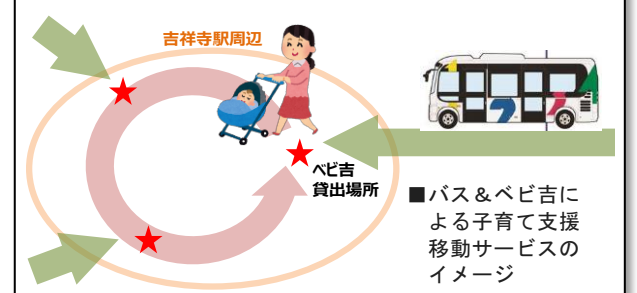
施策③ 交通・福祉分野の「間」需要への対応

③-1 新たなタクシーサービスの検討

- 自宅と指定した目的地（病院・スーパーなど）の間などを利用できる一定期間乗り放題の「タクシーサービス」の検討
- 登録制のエリア固定タクシーの検討



③-2 バス&ベビ吉による子育て支援移動サービス



③-3 ちよいのり・相乗りタクシー

③-4 福祉タクシーの周知・利用促進

施策⑥ 駅周辺まちづくりと連携した交通空間の有効活用

- ⑥-1 「NEXT-吉祥寺」に基づく歩行者が優先される「歩いて楽しいまち」の形成
- ⑥-2 「三鷹駅北口街づくりビジョン」に基づく「ゆとりある駅前空間」の創出
- ⑥-3 武蔵境駅周辺における「安全で歩いて楽しいまち」の形成